

11/14 17:30

公開不可

取扱い注意

東京電力株式会社

情報共有

非管理メモ

NISA班 ← 対応

暫定版

(2枚)

プラント状況(本店会見)議事メモ

日時：平成23年11月14日(月) 11:00~11:20

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約15名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：なし

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 放射性廃棄物貯蔵設備の建設場所は。

A. プロセス主建屋から南側へ約150mあたりの場所を予定している。

Q. 設備の材質等はどのようになっているのか。

A. 設備概要として、タンクは厚さ25mmの鉄製の横置円筒型で、直径3.2m、長さ約13.5mで、90m³の貯蔵量がある。タンクは計8機設置予定である。線量が高いので、壁厚約1mのコンクリートで覆う予定である。付帯設備として、排ガス処理設備等も設置予定である。

Q. 計画設置数量の8機が満杯になる見通しはいつ頃か。

A. アレバは引き続き待機状態を維持する予定であるため、ほとんど使用することはないと考えている。キュリオン、サリーが万一停止した際しか運用しないため、当面は運用可能である。

Q. 本日実施の2号機PCVガス管理システムのサンプリングは、施設運営計画における1週間に1回の定期サンプリングを指しているのか。

A. その通り。

Q. サンプリング結果は本日午後の会見で公表するのか。

A. 午後測定を実施するため、明日公表したいと考えている。

Q. 廃スラッジ貯蔵施設は、水処理施設の運転開始当初から追設を予定していたのか。

A. もともと廃スラッジの発生量は水処理量が20万トン~25万トンに対して、2,000m³程度と見込んでおり、現在はプロセス主建屋にあるペレット貯槽に仮保管しているが、一時貯蔵のために建設する予定であった。

Q. ペレット貯槽にはどのぐらい仮保管できるのか。

A. 約800m³保管できる。

- Q. ペレット貯槽から廃スラッジ貯蔵施設へ移送するとのことだが、各施設の位置関係は。また、どのように移送するのか。
- A. ペレット貯槽はプロセス主建屋の地下にあり、来年4月に廃スラッジ貯蔵設備が完成後、遮へいなどを行った上で、移送していく予定。
- Q. 11, 12日に細野大臣に同行する形で福島第一原子力発電所が公開されたが、東京電力として取材を受け入れる予定は。
- A. 記者の皆様からのご要望はいただいております、線量の問題や作業の干渉等検討していきたい。
- Q. 警戒区域外のJヴィレッジでの取材も難しいのか。
- A. Jヴィレッジは警戒区域の境目にあるため、警戒区域の解除にあわせて検討させていただきたい。
- Q. 記者が発電所へ入る際の現地での手続き方法としては、本人確認とWBCによる被ばく量の測定を実施したのか。
- A. その通り。
- Q. 免震重要棟に一度に入った人数は。
- A. 記者の皆様が36名、東京電力の広報担当も同人数程度入っている。一度に入ったというよりも、順次サーベイを行いながら入っている。
- Q. Jヴィレッジの取材について、障壁となっているものは何か。
- A. 作業の干渉やご案内に際する準備等が必要であるので、検討しているところである。
- Q. 3号機ガス管理システムにおけるロボットによる水の拭き取りは、水を拭き取ることを指すのか。水を使っての作業という意味か。
- A. 水の拭き取りである。前回の調査時に620mSv/hなどの高線量箇所や水たまりが確認できたので、ウォリアーに拭き取り装置を取り付けて実施したいと考えている。
- Q. 水は雨水などによるものか。
- A. まだわかっていない。拭き取った上で線量が下がるかを確認したいと考えている。
- Q. 水の拭き取りはどのように実施するのか。拭き取ったものはどのように処理するのか。
- A. ウォリアーのアームに取り付けた、拭き取り用のウェスを使って実施する予定である。拭き取ったものは廃棄するが、線量の測定等については確認したい。

以上